



University of the Ryukyus Library Bulletin Vol.34 No.1 (No.129) Jan. 2001

## 附属図書館の充実と将来展望

宜保 清一

大学改革の中で、附属図書館は自己点検評価を行いその機能強化に努めるとともに、将来構想づくりに取り組んでいる。館長就任に当たり、当館の21世紀における役割と機能強化について述べてみたい。

我が国は、21世紀を輝ける時代とするために、「教育立国」と「科学技術創造立国」の二つの目標を掲げている。その実現のために、大学は国際的な競争を明確に意識し、世界最高水準の教育研究を目指すべきであり、大学の個性こそが高く評価されるべきであるとされている。特に地方国立大学は、地域の活性化、産業の振興、文化の継承と創造などの基盤を支える重要な役割を果たしてきたが、今後ますます地方分権の進展が求められる中で、そ

の役割と機能については一層維持強化される必要があるとしている。琉球大学には沖縄県の振興開発計画への支援が求められている。沖縄県の振興は国際化、情報化、高齢化などの新しい時代に対応し、ゆとりと安心感のある質の高い地域環境整備に努めるとともに、世界に開かれた我が国の南の拠点としての特性を発揮し、活力と潤いに満ちた個性豊かな地域社会を形成することを基本方向としており、琉球大学の支援が必要不可欠である。また、琉球大学には、沖縄県の地理的・自然的特性と独特の伝統文化および国際性豊かな県民性を生かしてアジア・太平洋および南米諸国との国際交流・協力のための拠点形成が求められている。

目次	
新館長あいさつ	……宜保清一 1
島袋源七とその蔵書	…… 3
Webからの沖縄関係資料検索	…… 4
本館の資料配置が変わりました	…… 5

目次	
平良元附属図書館事務長の「図書館功労賞」受賞によせて	…… 豊平朝美 6
お知らせ	…… 8

附属図書館のホームページ (<http://www.lib.u-ryukyu.ac.jp/>) もご覧下さい。

このように、琉球大学への期待の高まりと、情報のデジタル化やグローバル化が進む中で、附属図書館は教育研究・文化交流の情報集積・発信の中核として学内外に広く貢献すべきであると考えられる。そのためには、電子図書館的機能の充実・強化、図書資料の充実と活用、貴重資料の電子化と保存、などの整備を急ぐ必要があり、予算基盤の確立は不可欠である。

取り組み中の第三回目の自己点検評価では、当館の全体像をサービス、リソースおよびマネジメントの三つに分け、12の評価項目に対し客観的な数値により評価を行っている。提示されている短期課題の中で特筆すべきものに、医学部分館の24時間利用体制の確立、蔵書目録の早期データベース化、電子ジャーナルの周知と利用促進、電子ジャーナル導入に関する学内方針の策定、ラウンジスペースの確保、洋書の充実、実効性のある経営理念の確立と継承、がある。図書館の機能強化や高いサービスの要請に応えるためには、経費の確保と多くのエネルギーが必要とされる。蔵書目録の早期データベース化の一つにしても現状の50%から100%達成までには相応の予算措置と時間を要する。外部発注を進めれば運営費の上昇が予想され、経費削減や定員削減との狭間で、業務の合理化や人員構成の見直しを押し進めるとともに、内部研修のさらなる充実を図る必要がある。

附属図書館の将来構想に関しては、その検討委員会が21世紀にふさわしい大学図書館の機能について考え方をまとめている。

教育・学習支援機能については、情報リテラシー教育に図書館職員が積極的に参加し、その充実を図る。授業担当教官と協力して授業に関するさまざまな情報・教材を電子化して提供する。教育・学習用資料整備のための選定・収集体制を確立する。夜間主コースの教育・学習支援の拡充を図る。開館時間延長あるいは24時間開館の方策を探ると同時にインターネットで図書館のさまざまなサービスが受けられるようにする。研究支援機能については、学術情報資料の整備を図る。電子ジャーナル導入のための財政基盤を整えるとともに、紙の資料と電子資料のバランスがとれた蔵書構築を目指す。学術情報検索ツールの

充実をはかる。蔵書目録データの遡及入力はできる限り早く完了させ、原文献へのリンクを備えた二次情報データベースの導入を図る。インターネット上の情報資源への案内サービスも充実させる。ネットワークを介して図書館のさまざまなサービスが24時間受けられるようにする。研究成果の発信支援に向けて全学的な検討の場に積極的に参加する。生涯学習支援機能については、大学図書館の公開のひとつとして一般市民にも貸出を認めるなど、当館は全国的に見ても進んでいる。今後はサービスをどの程度まで拡大するのか検討が必要である。県内の図書館とのより緊密なネットワーク形成に寄与する。インターネットによる学外向けの情報提供を行う。身体障害者、高齢者の図書館利用に配慮し、バリアフリーの図書館を構築する。

以上のような役割・機能を果たすための基盤として、予算基盤の確立、効率的かつ顧客の満足度の高いサービスを提供できる管理・運営体制の構築、十分な資料保存スペースや閲覧席数を確保すると同時に新しい機能にも対応した施設・設備の整備が必要であるとしている。附属図書館が21世紀のデジタル情報化時代にふさわしい図書館サービスを提供するためには、電子図書館的機能の強化と基盤整備は緊急な課題といえる。これに関しては、小杉忠誠医学部教授が「電子図書館への道」(『びぶりお』No.128、2000.10)で基盤整備の重要性を指摘している。

大学図書館の地域社会への開放に関しては、当館は全国的に見ても進んでいる方であるが、学内者と同様な高質の情報サービスを要望する知的職業の学外者に応えるためには、新たな図書館利用制度を導入する必要がある。アメリカの大学図書館は地域開放の面で先駆的であり、山本順一氏(『図書館雑誌』2000.10)によると、ジョージタウン大学ではLibrary Associates制度を設け、学外者に対応している。図書館に年間50ドル以上を寄付すれば、学内外で開催される講演会などに招待され、図書館報の配布を受けることができる。年間100ドルを超える寄付者には学内者と同等の大学図書館利用証が発行される。日本の国立大学においても寄付金の受け入れ制度はあり、

ある大学の附属図書館では1億円を超える奨学寄付金を得ているそうである。ジョージタウン大学に倣い、琉球大学附属図書館でも1～10万円の奨学寄付金制度を設けて、寄付者

に高質サービスを提供することも、財政逼迫の折り、一考に値するものと考えらる。

(ぎぼ せいいち：附属図書館長)

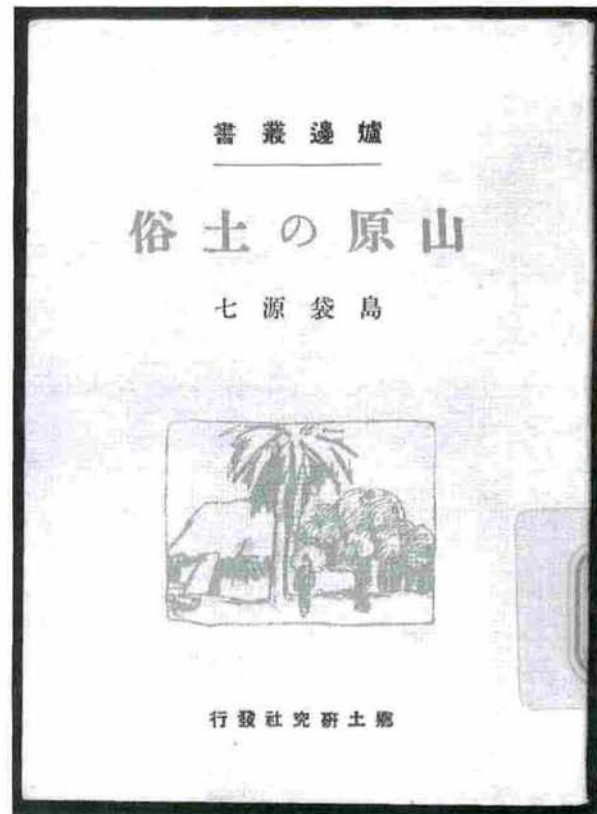
## 島袋源七とその蔵書

島袋源七は1897(明治30)年、今帰仁間切(村)勢理客に生まれ、1953(昭和28)年に没した民俗学者です。1921(大正10)年、折口信夫が沖縄を訪れた際、国頭地方を案内し、折口に啓発されて、山原(沖縄本島北部)の民俗調査を行うようになりました。その成果が「山原の土俗」(1929(昭和4)年、郷土研究社発行・写真)です。

彼は1927年に上京し、小学校に勤務するかたわら立正大学に学び、卒業後、立正大学中等部(戦後は高等部)教諭となりました。教壇に立つ一方、彼は在京の代表的な沖縄研究者の一人で、柳田国男の南島談話会、民間伝承の会(日本民俗学会の前身)の創立当時のメンバーでもありました。戦後は沖縄文化協会、おもろ研究会の会員として活躍しました。「山原の土俗」は現在なお評価の高い書物ですが、他に「今帰仁を中心とした地名の一考察」、「阿児奈波の人々」、「沖縄の民俗と信仰」などの著作があります。(以上、沖縄タイムス社発行「沖縄大百科事典」による。)

琉球大学附属図書館では、この島袋の旧蔵資料の一部115冊を1957(昭和32)年に購入し、島袋源七文庫として保存しています。本文庫は、民俗学関係の資料、特に山原地域の資料を主体とし、貴重な古文書や古写本も含まれています。中でも「浦添家本伊勢物語」は1974(昭和49)年に沖縄県重要文化財に指定されています。

附属図書館では、普段目にする機会が少ないこうした貴重な資料を中心に、島袋源七の人と業績を紹介する展示会「島袋源七ー山原の民俗学者」を開催します。ぜひ一度ご観覧ください。



### 琉球大学附属図書館資料展示会

#### 「島袋源七ー山原の民俗学者」

期間：2001(平成13)年1月22日(月)～2月2日(金)

場所：琉球大学附属図書館エントランスホール

#### 特別講演会：「島袋源七：山原の民俗学者」

講師：仲原弘哲(今帰仁村歴史文化センター館長)

日時：2001(平成13)年1月27日(土) 14:00～

場所：琉球大学附属図書館多目的ホール

# Webからの沖縄関係資料検索



「沖縄関係資料検索」は資料の目次情報からも検索でき、結果表示に検索キーが朱書きされる特徴をもっている

## 検索手順①

〔沖縄資料検索〕条件入力

- (1) 資料の種類区分の指定  
和洋区分を指定して検索するときにはクリックする
- (2) 検索語（キーワード）入力  
・前方一致検索は末尾に\* ・複数入力の場合は AND検索  
・単語単位で入力、冠詞・前置詞は使用しないこと  
日本語入力モードの切り替えは [Alt]+[半角/全角]キーを押す
- (3) 検索開始をクリックする



## 検索手順②

〔沖縄資料検索〕簡略(一覧)表示

ヒット件数が表示される  
件数が多い場合はスクロールバーで確認する

該当する資料名をクリックする

著者と出版者が / / で区切られている場合は  
旧「沖縄資料目録」データで、所蔵情報が  
欠けていることがある  
〔沖縄資料詳細表示〕で分類等を確認することは可能



## 検索手順③

〔沖縄資料検索〕目次内容詳細表示

資料の内容注記(目次情報等)がある場合は  
〔沖縄資料内容注記情報〕として  
目次情報等が表示される  
検索キーが朱書きされるのも特徴の一つ



## 検索手順③/2

〔沖縄資料検索〕詳細表示(2)

「沖縄関係資料検索」は内容注記の検索を主目的とした検索で、NCIDが[KB\*\*\*]以外の場合は、「所蔵状態へ」で所蔵状況を確認するすることができる。  
検索キーが朱書きされるのも特徴の一つ

# 本館の資料配置が変わりました

## 本館 2 階

★正面玄関のフロアは2階です



- (1) サービスカウンター (2) 新着図書・OPAC (3) (4) カード目録 (5) 複写コーナー
- (6) 資料サービス係 (7) 参考調査係 (8) 公衆電話 (9) 返却ポスト
- (11) 開架閲覧室 2 A 室…… 参考図書 (事典、辞典、年鑑、白書類)
- (12) 開架閲覧室 2 B 室…… 新着雑誌、アジア関係資料、アメリカ研究図書
- (13) 書庫 2 C 室…… 和雑誌 (1976～) ア～ン
- (14) 書庫 2 D 室…… シュ～ワ、法令
- (15) 書庫 2 E 室(中 2 階)…… 洋雑誌 (1976～) A～D、T～Z、紀要
- (16) 書庫 2 F 室(中 2 階)…… E～T
- (17) 沖縄開架資料室 2 G 室…… 沖縄関係資料(開架分)
- (18) マイクロ資料室 2 H 室…… マイクロ資料、AV (ビデオ、CD 等) 資料
- (19) 沖縄(開架)資料室 2 K 室…… 沖縄関係資料(閉架分)

## 本館 3 階



- (1) 留学生コーナー・海外衛星放送設備 (2) 研究開発室 (3) 対面朗読室 (4) 文庫本コーナー
- (5) 複写コーナー (校費) (6) システム管理係 (7) 電子情報係 (8) 電算機室
- (11) 開架閲覧室 3 A 室…… 一般図書 (1990～受入) (和洋混配) NDC 3 類
- (12) 開架閲覧室 3 B 室…… 一般図書 (1990～受入) (和洋混配) NDC 4 類～9 類
- (13) 書庫 3 C 室…… 和書 (~1989 受入) NDC 000～222、370～399
- (14) 書庫 3 D 室…… NDC 222～379
- (15) 書庫 3 E 室(中 3 階)…… NDC 400～599、湧川文庫
- (16) 書庫 3 F 室(中 3 階)…… NDC 600～999、考古資料、矢内原文庫
- (17) 開架閲覧室 3 G 室…… 国際資料 (EU、国連、OECD、UNESCO) 一般図書 (1990～受入) (和洋混配) NDC 0 類～2 類

## 平良元附属図書館事務長の「図書館功労賞」受賞によせて

豊平 朝美

平成12年10月25日から那覇市の沖縄県立武道館アリーナ棟をメイン会場に全国図書館大会(第86回)が沖縄で始めて開催された。今年は「万国津梁の邦沖縄からの21世紀へ飛翔」をテーマに地元沖縄県を含む全国各地から1,600名余が参加した。開催初日の奥武山の武道館で行なわれた開会式で壇上で南北朝鮮の図書館協会の代表者が手を取り合っていたのが印象的である。まさにテーマのごとく、万国津梁(架け橋)の邦として沖縄で開催する意義を見出す格好の光景である。日本図書館協会、沖縄県等の主催で開催されたこの大会は、大会事務局を置いた沖縄県立図書館を中心に公共図書館、大学図書館、学校図書館等県内外の協力でその準備運営が進められた。初日の武道館の開会式、全体会を皮切りに、翌日は「公共図書館」等館種別図書館や「図書館利用教育」等14のテーマのもとに分科会が那覇市内の各会場で行われ、最終日の27日は、再び武道館で全体会、閉会式が行われて、3日間の幕を閉じた。初日の開会式で「図書館功労者」の表彰式があり、受賞者の一人として、本学図書館の元事務長の平良恵仁氏が表彰された。

平良氏は昭和28年文部省図書館養成所終了後、同年5月1日付けで琉球大学附属図書館に勤務、その後、昭和32年に事務長扱となり、昭和35年に事務長に昇任した。昭和60年に定年で退官するまで図書館一筋に歩んで来られた。平良氏の30年余にわたる功績は石川館長(当時)、伊藤事務部長等事務部の責任者の承認を経て、大会事務局へ「図書館功労者」として推薦された。

琉球大学は沖縄県における最初の高等教育機関として昭和25年5月に設立された。平良氏は琉球大学附属図書館初代事務長として、近代的な大学図書館制度の導入等に努めた。戦後の米国統治下のもとで、琉球大学の草創期から図書館運営にあたり、様々な苦心をしながら今日の琉球大学の基盤を築いた。戦前の沖縄県立図書館には多数の沖縄関係資料が収蔵されていたが、これらの資料を含めて沖縄県にあった資料が先の大戦でほとんど焼失した。

当館が沖縄研究の中心的役割を果たすため、戦後逸早く沖縄関係資料の収集に着手し、当館の特色の一つである「沖縄関係資料コレクション」の礎を築いたのが平良氏であった。また平良氏は日本本土や米国の大学等で館員を研修させ、人材養成にも努めた。その他、沖縄の日本本土復帰前の昭和45年11月に全沖縄大学図書館協議会(現沖縄県大学図書館協議会)の設立に尽力し、県内の大学間の相互協力など連携を図るとともに、昭和56年には、本学が当番校として、第28回国立大学図書館協議会総会が沖縄県で開催されたのを機会に、本学図書館と本土の国立大学図書館との一層の連携・強化を図った。

特に平良氏が腐心した沖縄関係の収集については、本学図書館が開館(昭和25年4月)して間もない昭和30年5月20日にロックフェラー財団から5,000ドル(180万日円)の寄付を受けて、その中から「沖縄学の父」といわれている故伊波普猷の貴重な旧蔵資料「伊波普猷文庫」を遺族の冬子夫人のご意向と仲宗根政善館長(故人)のご尽力で購入することができた。その後も、個人のご厚意による貴重な蔵書の譲渡があり、国内外の大学等にある沖縄関係資料も関係機関の協力でマイクロフィルムによる複製によって入手することが出来た。沖縄関係資料の入手及び資料の整備については、学内の教官の協力が不可欠である。昭和46年に宮里政玄教授(当時)を委員長に「琉球大学戦後資料収集委員会」が設置され、同委員会による粘り強い折衝を経て、60万枚に及ぶ米国民政府資料(琉球政府文書を含む)を入手することが出来た。その作業のため、新井裕丈氏(当時整理係長)をキャップとする職員で複写業務が昭和47年度から3年間続けられた。膨大な戦後資料の整理に山田氏(当時参考調査係長)や仲西盛秀氏、松島寛正氏等が当たった。戦後資料の内容についてはその後、整理係が中心になって『沖縄戦後資料目録』として作成された。山田氏はその後『沖縄の図書館と図書館人』等図書館史に関する著書・論文等多数著述している他学校

図書館学の講師を石川清治氏(現教育学部教授)とともに1964年から勤めている。また、昭和57年に沖縄研究資料の整備・充実を図るために、我部政男教授(当時)を委員長とする「沖縄研究資料調査収集小委員会」(後に「沖縄研究資料調査収集専門委員会」に変更)が図書館運営委員会のもとに設置された。我部教授は国立公文書館等他機関に所蔵する明治期の沖縄関係の公文書を中心に势力的に資料を収集した。図書館OB職員では、新城安善氏(参考司書、整理係長等歴任)も沖縄関係資料の調査、収集にあたり、当館所蔵の沖縄関係資料についても、目次・内容を記載した詳細な目録を1965年版から作成してきた。新城氏は沖縄関係資料の書誌に関する著書や研究論文を数多く出している。崎浜文枝氏は資料収集の手続等のため尽力されたが、当館の創草期からの歴史年表『琉球大学附属図書館三十年略年表』を在職中に出している。また、館員に目録作成(主に洋書)を指導した宮島恵曠氏はハワイの湧川清栄氏(故人)からの寄贈された大量の外国図書「湧川清栄文庫」の整理に当たった。外国

人利用者のため、館内で始めて英文案内を作成した松島寛正氏等その他の図書館OB職員の労苦も見逃せない。平良氏の収集理念は部課長制度が敷かれた昭和60年4月以降も引き継がれ、昭和61年6月11日にはこれまでの沖縄関係資料の書誌目録作成等の実績が認められて、新城安善氏を代表者とする沖縄関係資料収集整備班が昭和61年度の国立大学図書館協議会賞を受賞している。今日、沖縄県立図書館等公共図書館では沖縄関係資料の収集整備を一段と進めており、沖縄県立図書館を中心に各機関の所蔵する沖縄関係資料のデータベース化も計画されているようである。現在、本学も含めて沖縄県立図書館、沖縄県公文書館などホームページを通じて各々の機関の蔵書を外部からでも検索できるようになっているが、沖縄県立図書館、沖縄県立公文書館、大学図書館等の県内の機関の所蔵する沖縄関係資料について、沖縄関係総合目録データベース等の構築が関係者の手で1日も早く実現される日が待ち望まれる。

(とよひら ともみ：図書館専門員)



(全国図書館大会メイン会場)  
沖縄県立図書館提供



(図書館功労者平良氏の授賞式風景)  
沖縄県立図書館提供

## 「びぶりお」ホームページのご案内

これまで「びぶりお」に掲載しておりました下記の記事は、ホームページからご覧いただけます  
 沖縄関係新着案内 沖縄関係資料室 → 新着図書案内  
 新規中止雑誌リスト 利用案内 → 新規中止雑誌リスト

「びぶりお」のバックナンバー Vol.30 No.3(No.115) July 1997 ~

電子化資料と図書館活動 → 館報びぶりお (2000年7月からはPDF)

# お知らせ

## ◎ 開館案内 2001年1～3月

1月							2月							3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6					1	2	3					1	2	3
7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10	4	5	6	7	8	9	10
14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17	11	12	13	14	15	16	17
21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24	18	19	20	21	22	23	24
28	29	30	31				25	26	27	28				25	26	27	28	29	30	31

- ・開館時間 通常期：月～金 [黒字] 8:30～22:00 土・日・祝 [緑字] 13:00～20:00
- ・ 休業期：月～金 [青字] 8:30～17:00 土・日・祝 [赤字] 休館
- ・休館日 土・日・祝 (冬季休業：～1/6、春季休業：2/20～)、年末年始 (12/28～1/4) 入試 (1/20～1/21、2/25～2/26)、定例休館日 (1/25、2/22、3/22)

(年間の開館案内はホームページをご覧ください)

### ◎長期貸出開始

2月20日(火)～3月31日(土)は春季休業のため、2月6日から長期の貸出しを行います。貸出冊数は通常通りで変更はありません。返却期限は、4月13日(金)です。ただし、卒業生の貸出期限は3月16日までとなります。また、長期貸出した資料については、貸出延長の手続きはできませんのでご注意ください。

## 図書館映画会

。。。あの思い出の映画をもう一度。。。

場 所：琉球大学附属図書館  
1階多目的ホール  
上映時間：☆休業期 13:30～  
通常期①15:00～  
②18:00～

### 【1月の予定】

- ☆1月10日 (水) 醜女の深情他：TILLIE'S PUNCTURED ROMANCE/1914/アメリカ映画 109分
- 1月17日 (水) チャップリンの消防夫他：THE FIREMAN/1916/アメリカ映画 91分
- 1月24日 (水) キッド：THE KID/1921/アメリカ映画 56分
- 1月31日 (水) 黄金狂時代：THE GOLD RUSH/1925/アメリカ映画 85分

### 【2月の予定】

- 2月7日 (水) 果てなき航路：THE LONG VOYAGE HOME/1940/アメリカ映画 105分
- 2月14日 (水) 怒りの葡萄：THE GRAPES OF WRATH/1940/アメリカ映画 129分
- ☆2月21日 (水) わが谷は緑なりき：HOW GREEN WAS MY VALLEY/1941/アメリカ映画 118分
- ☆2月28日 (水) 黄色いリボン：SHE WORE A YELLOW RIBBON/1949/アメリカ映画 103分

### 【3月の予定】

- ☆3月7日 (水) 終着駅：INDISCRETION OF AN AMERICAN WIFE/1953/アメリカ映画 72分
- ☆3月14日 (水) 道：LA STRADA/1954/イタリア映画 107分
- ☆3月21日 (水) 慕情：LOVE IS A MANY-SPLENORED THING/1955/アメリカ映画 102分
- ☆3月28日 (水) クレイマー、クレイマー：KRAMER VS KRAMER/1979/アメリカ映画 105分

琉球大学附属図書館報 “びぶりお” 第34巻 第1号 (通巻第129号)

平成13年1月1日発行

発 行：琉球大学附属図書館 〒903-0214 沖縄県中頭郡西原町千原1番地

電話 098(895)8168 Fax.098(895)8169

発行人：附属図書館事務部長 伊藤 祐三 編集：“びぶりお”編集委員会